『西大門』（小松原蘭／季刊遠近69号）――妓生ツアーが盛んなバブル期、商社外商部の父親は妻と娘の私を伴い韓国に。妻娘の日常は雇ったメイド任せ。私はその娘と仲良しに。だが台風と洪水でメイド親娘の家が倒壊、再建に父は娘を買った！　私は怒りの矛先を娘に向け住む家に突進、二人は二階の階段から転落、私は軽傷、私をかばうように落ちた娘は重傷。私は15年後に再び韓国を訪れる。近代化顕著な韓国社会、日本に向けた愛憎の一断面が活写される。